

編集 後記

先日、本誌へのある投稿論文を編集委員として担当した。行政の職員とある研究機関の部長クラスとの連名である。編集子の推察では研修期間中に実施した研究の成果であろう。研究の意義については査読者間で意見が分かれたので、ここでは言及しない。問題は論文の形式などである。当然のことながら、科学論文は再現性が一つの鍵となる。「方法」は再現性を担保するための重要な部分だが、残念ながらこの論文を読んだだけで同じ研究を実施できるようなものではなかった。その他、問題は数多くあり、この論文からいくつかの課題が見えてきた。

まず第1に、学術論文を執筆するためにはそれなりの勉強と訓練が必要ということである。このことは研究遂行全体についても当てはまることである。勉強については、指南書を読み、この業界の一定のお作法を知って、それに従うということであろう。一方で訓練は、それなりの指導者の下で実際に指導を受けながら研究や論文執筆を進めていくということである。この著者の場合にはいずれもが欠けていたと推察する。なお編集子は研究の遂行や論文執筆は冬山登山と同じで、素人が指南書を読んだだけで冬山に出かけて生還すれば奇跡、地図や天気図も読めずに経験者の後について行くだけではいつまでたっても1人前にはなれない、と主張している。個人的なことだが、近々学会発表や論文執筆に関する指南書を刊行する。そこでは「この本を読んだだけでは1人前にはなれない。指導者の指導も必要である」という思想が貫かれている。

問題の論文は指導的な立場の研究者との共著だったが、この研究者はどのような立場だったのだろうか。(1)勝手に名前が使われた、(2)論文の内容を確認しなかった、(3)研究者の実力もこの程度、など、いろいろな場合が想定されるが、いずれにしても後進の指導は丁寧に行っていたいただきたいものである。

きちんとした勉強と訓練を積んだ上での投稿を期待する。
(中村好一)

次号予告 (第60巻・第8号)

原著

血清総コレステロール値と要介護認定リスクに関する前向きコホート研究
鶴ヶ谷プロジェクト……………星 玲奈, 他

研究ノート

喫煙・受動喫煙状況、喫煙に対する意識および喫煙防止教育の効果
佐賀県の小学校6年生の153校7585人を対象として……………原めぐみ, 他
地域住民における推定糸球体濾過量 (eGFR) を用いた腎機能と尿蛋白からの心血管疾患リスク要因およびメタボリックシンドロームの断面的検討……………今渡龍一郎, 他

資料

イングランドの小児緩和ケアに関する法政策・統計データ・資金体制・提供される医療の現状……………田中美穂, 他